

第1回 白髪一雄現代美術賞

既成概念にとらわれない前衛作品を発信し世界的に評価された本市ゆかりの現代美術画家「白髪一雄氏」にちなみ、若手アーティストによる先駆的で魅力のある現代美術作品を募集します。

応募資格

- (1)令和4年4月1日現在で40歳以下である
- (2)現代美術の分野において活動し、発表経験があること

応募方法

尼崎市ホームページから「第1回白髪一雄現代美術賞応募用紙」をダウンロードの上、必要事項を記入して下記受付期間内にメールまたは持参にて提出してください。

<提出期限>

令和3年7月1日(木)～令和4年1月31日(月)(必着)

<提出書類・資料>

- (1)第1回白髪一雄現代美術賞 応募用紙 2部
- (2)A-LabのRoom1における展示プラン
- (3)過去の活動がわかるポートフォリオ
 - ①公演や展覧会を記録した冊子、チラシ等
 - ②作品を記録した写真
 - ③その他活動の内容がわかるもの

顕彰内容

- (1)副賞 30万円
- (2)展覧会開催に係る経費の一部
- (3)本市職員およびあまらぶアートラボ「A-Lab」職員による発表・ワークショップなどの実施サポート
- (4)HP、プレスリリース等による広報協力
- (5)展覧会報告書の作成

スケジュール

応募期間	令和3年7月1日から令和4年1月31日
選考期間	令和4年2月中
受賞作家決定	令和4年3月上旬
授賞式	令和4年3月下旬
展覧会実施	令和4年度中



第1回選考員



天野太郎

インディペンデント・キュレーター。多摩美術大学、女子美術大学等の非常勤講師。美術評論家連盟所属。北海道立近代美術館勤務を経て、1987年より横浜美術館、2015年より横浜市民ギャラリーあざみ野で、国内外における数々の展覧会企画に携わる。「横浜トリエンナーレ2005」でキュレーター(2011年、2014年はキュレトリアル・ヘッド)を、2018年からは札幌国際芸術祭2020統括ディレクター。



江上ゆか

兵庫県立美術館 学芸員。1969年兵庫県生まれ。1992年より兵庫県立近代美術館(2002年からは兵庫県立美術館)学芸員。近年、担当した展覧会に「注目作家紹介プログラム チャンネル7 高橋耕平一街の仮縫い、個と歩み」(2016年)、「美術の中のかたち―手で見える造形中ハシクシゲ―触りがいいある犬」(2018年)、「集めた!日本の前衛―山村徳太郎」(2019年)など。



さわむらき

美術家。1977年石川県生まれ。2003年ロンドン大学スレード校美術学部彫刻家修士課程修了。ロンドン在住。自身の心象風景や記憶の中にある感覚といった実体のない領域を、映像・立体・平面作品などで構成されたビデオインスタレーションで表現する。映像や立体造形物を巧みに操り、現実にはありえない光景を描きながら、どこか親しみを感じさせる世界を展示空間に生み出し、見る者の想像力に働きかける。



原久子

大阪電気通信大学教授。関西を拠点に美術に関わる展示・イベントなどの企画・運営、執筆(これまでに日本経済新聞、美術手帖、AERAやweb媒体など)、編集、コンサルティングなどを行なう。国内外での調査を展開し、海外との交流企画なども手がける。主な共著に「変貌する美術館」(昭和堂)、共同企画に「六本木クロッシング2004」(森美術館)、「あいちトリエンナーレ2010」(愛知県美術館ほか)など多数。



平井章一

関西大学文学部教授。京都府生まれ。博士(文学)。兵庫県立近代美術館学芸員、国立新美術館主任研究員、京都国立近代美術館主任研究員等を経て2018年から現職。この間、具体美術協会の大規模な回顧展や同会の元会員白髪一雄の個展を企画。著書に『「具体」ってなんだ?』(美術出版社、2004年)等、共著に『白髪一雄 水滸伝豪傑シリーズ』(ライブアートブックス、2018年)等。

注意事項

次の場合には、受賞者の決定を取り消し。または、本市から授与した賞金等の返還していただくことがあります。

- (1)応募内容に虚偽があった場合
- (2)条件を満たす発表が実施不可と見込まれる場合

提出・問い合わせ先

尼崎市文化振興担当

(尼崎市東七松町 1-23-1 市役所中館7階)
TEL 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702
MAIL ama-art@city.amagasaki.hyogo.jp